

文部科学省委託事業

令和5年度「学校教育における外部人材活用事業」における
学校現場におけるアスリート人材活用推進事業

事業成果報告書

株式会社フューチャー・デザイン・ラボ

FUTURE Design Lab
www.futuredesignlab.jp

目次

I. 本事業実施にあたり	・ ・ ・ ・ ・ P3
--------------	--------------

II. 事業成果	・ ・ ・ ・ ・ P5
----------	--------------

(1) リストの作成・周知および継続的な更新・周知可能な体制の検討	
①アスリート人材に関する採用選考を実施している又は近年中に実施予定の 都道府県・政令指定都市教育委員会に関するリストの作成	・ ・ ・ ・ ・ P5
①参考) 社会経験のあるアスリート人材の教員採用実績及び教員採用意向に ついての調査 回答概要	・ ・ ・ ・ ・ P6
②教師としての入職を希望、検討している又は関心のあるアスリート人材に 関するリストの作成	・ ・ ・ ・ ・ P10
②参考) アスリート人材の教職意向調査 回答概要	・ ・ ・ ・ ・ P12
③作成したリストの教員採用現場への定着方法	・ ・ ・ ・ ・ P22
④作成したリストが事業終了後も低廉な予算で継続して更新・周知できる体制 手法に関する提案	

(2) アスリート人材の活用に関する事例集の作成	・ ・ ・ ・ ・ P23
--------------------------	---------------

(3) その他取り組み	・ ・ ・ ・ ・ P24
-------------	---------------

III. まとめ	・ ・ ・ ・ ・ P27
----------	---------------

IV. 事業実施体制	・ ・ ・ ・ ・ P28
------------	---------------

V. 添付資料	・ ・ ・ ・ ・ P28
---------	---------------

- 資料1) - 1 「社会経験のあるアスリート人材の教職採用実績および教員採用意向についての調査」調査票
- 資料1) - 2 アスリート人材教員採用情報_教育委員会リスト
- 資料2) - 1 「アスリート人材の教職意向調査」調査票
- 資料2) - 2 教職に関心のあるアスリートリスト
- 資料3) アスリート出身者の教師としての入職に関する事例集
- 資料4) SCSC アスリートキャリアチャレンジカンファレンスチラシ

I.本事業実施にあたり

◆本事業趣旨) 公募要領より

様々な専門性や背景を有する人材を学校現場に取り込んでいくにあたり、教師としての採用を希望する外部人材と、外部人材の採用を希望している学校設置者をつなぐ環境を整備することは重要である。特に、アスリート人材については、スポーツ基本法（平成23年法律第78号）において、「国は、優秀なスポーツ選手及び指導者等が、生涯にわたりその有する能力を幅広く社会に生かすことができるよう、社会の各分野で活躍できる知識及び技能の習得に対する支援並びに活躍できる環境の整備の促進その他の必要な政策を講ずる」とされている。

これらを踏まえ、教師志望のアスリート人材の教師としての入職に資する観点から、アスリート人材に関する採用選考を実施している都道府県・指定都市教育委員会に関するリストや、教師としての入職に関心のあるアスリート人材に関する人材リストを作成し、都道府県・指定都市教育委員会に周知するとともに、アスリートが入職又はその検討に当たって、教師としての学校生活や求められる職務内容等に関する具体的なイメージの醸成に資するよう、学校現場におけるアスリート人材の活用事例を調査し、事例として取りまとめスポーツ関係団体に対して周知することにより、各地域で持続可能な学校現場におけるアスリート人材の活用を推進する。

◆実施にあたり

令和2年度から始まった新たな学習指導要領において掲げられた理念「社会に開かれた教育課程」の実現にむけて多様な経験や背景を持つ人材が学校現場に円滑に参画できる環境整備を促進し、アスリートを含め学校教員に占める民間事業者等勤務経験者の割合を増加させることが本事業の目的である。

アスリート人材を教育現場に活用することの最大の効果は、一流の競技者となる過程で養成された「自らの限界に挑戦し続ける」チカラが教育現場に伝播していくことにあると考える。日本オリンピック委員会、スポーツキャリアサポートコンソーシアムの活動と連携し、アスリートの教育現場へのキャリアアランジョンが引退後の選択肢の一つであることを定着させたい。

「自らの限界に挑戦し続ける」アスリートスピリットが教育現場に広がることで「子供たちが自分のチカラで人生や社会をよりよくできるという実感」を持てるようになることにつながっていくことを願っている。

以下、本年度の文部科学省公募要領の記載に基づき、事業を展開する。

文部科学省令和5年度「学校現場におけるアスリート人材活用推進事業」公募要領より（一部抜粋）

テーマ2) 学校現場におけるアスリート人材活用推進事業

<委託事業内容>

(1) ①アスリート人材に関する採用選考を実施している又は近年中に実施予定の都道府県・指定都市教育委員会に関するリスト、②教師としての入職を希望、検討している又は関心のあるアスリート人材に関するリストを作成し、スポーツ関係団体や都道府県・指定都市教育委員会に周知するとともに、作成したリストを事業終了後も低廉な予算でかつ継続して更新・周知可能な体制・手法を検討すること。

(2) 学校現場におけるアスリート人材の活用事例を調査した上で、アスリート人材の活用に関する事例集を作成すること。事例集の作成に当たっては、アスリートが教師としての入職に当たって、教師としての学校生活や求められる職務内容、入職後のキャリアパス等に関して具体的なイメージすることができるよう、以下に示す観点に留意して作成すること。

(事例集作成に当たっての主な観点)

- 教職を希望するアスリート人材がアスリート人材の活用を希望する学校の設置者（教員採用権者）とマッチングする方法やそのプロセス
- （特別免許状の取得が必要な場合）免許状を有しないアスリート人材が特別免許状を取得し、入職するまでの具体的なフロー
- アスリート人材が教師として学校現場で求められる又は期待される役割や授業内容
- アスリート人材が教師としての入職を検討するに当たり必要と考えられる情報
 - ・ 授業実施に向けた準備や年間指導計画設計のイメージ
 - ・ 授業内容の設計方法（学習指導要領との関連性等）
 - ・ 授業に向けた教材作成・教材研究の方法
 - ・ 授業内外の児童、生徒に対する指導方法やコミュニケーションの取り方
 - ・ 学校管理職、同僚、保護者、団体等、地域住民、サポートスタッフとのかかわり
 - ・ 標準的な待遇例及びその後のキャリアパスのイメージ など
- アスリート人材が、自身の専門性を生かして授業を行った事例やその成果
- 教師として入職後の同僚及びスポーツ関係団体との連携及びサポート体制

II. 事業成果

(1) リストの作成・周知および継続的な更新・周知可能な体制の検討

(1) ー①アスリート人材に関する採用選考を実施している又は近年中に実施予定の都道府県・指定都市教育委員会に関するリストの作成

都道府県および政令指定都市の教育委員会から情報収集し、リストを作成

文部科学省発信として各都道府県教育委員会および政令指定都市教育委員会へこれまでの実績および意向調査を実施した。本調査においては、「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて教師外の社会経験のある人材で特にアスリート人材の中途採用実績の有無を調査することを目的とした。

本調査において「社会経験のあるアスリート人材」とは、大学等を卒業後おおむね2年以上プロ、実業団等で活動又はオリンピック等の大会での上位入賞を目指し企業に所属、スポンサー等を受けながら競技力向上に取り組んでいる又は過去取り組んでいた人材と定義した。

調査項目については、

別添資料1)ー1 「社会経験のあるアスリート人材の教員採用実績及び教員採用意向についての調査」

参照

調査主旨・調査項目を郵送し、回答はオンラインフォームまたは電子ファイルでの回収とした。

調査回答をもとにアスリート人材に関する採用選考を実施している又は近年中に実施予定の都道府県・教育委員会に関するリストを作成した。

成果1：「アスリート人材教員採用情報_教育委員会リスト」 **別添資料1)ー2**

アスリート人材教員採用情報リスト作成にあたって行った調査の主な結果を以下に記載する。
なお、調査にあたって「社会経験のあるアスリート人材」を対象としたため、回答時に「社会経験のあるアスリート人材」に限定した採用は行っていないという意図で「実施していない」と回答する教育委員会も多数見られ実際のアスリートに対する採用実施・採用意向よりも低い結果となっていると考えられるが、一般企業においての中途採用に当たる社会経験のある人材、特にアスリート人材が教職につくための道はまだ狭き門と言える。

①参考) 社会経験のあるアスリート人材の教員採用実績及び教員採用意向についての調査回答概要

I. 普通免許状所有者の採用実績及び採用意向について

近年の実績)

2019～2023 年度に普通免許状を所有している社会経験のあるアスリート人材を対象とした選考を実施していますか？

	都道府県 教育委員会	政令指定都市 教育委員会	合 計
①アスリート人材向けの特別の試験を実施している	16	3	19
	34.0%	14.3%	27.9%
②特別の試験は実施していないが加点制度等を実施している	0	1	1
	0.0%	4.8%	1.5%
③実施していない	31	17	48
	66.0%	81.0%	70.6%
合 計	47	21	68
	100.0%	100.0%	100.0%

2019～2023 年度の直近5年間にアスリート人材向けに特化した採用を実施していると回答した教育委員会は加点制度等も含めて全体の3割程度に留まっている。

今後の予定)

2024～2028 年度に普通免許状取得者の社会経験のあるアスリート人材の採用選考の実施予定はありますか？

	都道府県 教育委員会	政令指定都市 教育委員会	合計
①実施予定あり	9	3	12
	19.1%	14.3%	17.6%
②実施を検討している	9	2	11
	19.1%	9.5%	16.2%
③実施予定なし	29	16	45
	61.7%	76.2%	66.2%
合計	47	21	68
	100.0%	100.0%	100.0%

今後5年間(2024～2028年度)に普通免許状取得者の社会経験のあるアスリート人材の採用選考の実施予定についても「実施予定あり、実施を検討している」を合わせ34%という結果となった。

II. 特別免許状を活用した採用実績および採用意向について

アスリート人材の教員へのルートの一つに「特別免許状」を活用した入職があるが、実施状況・実施予定ともに低い水準にとどまっている。

特別免許状を活用した採用選考を実施する際の課題としては、下記2つの観点を上げる教育委員会が多い。

- ・普通免許状所有者で教職員定数を充足しているため特別免許状を活用した採用枠を設けることが難しい
- ・大学における教職課程の未履修者を教育現場に入れることに不安がある

アスリート人材を特別免許状を活用して採用する場合には、「保健体育」が前提となるが、科目の特性上、採用枠自体が大きくない。また新卒採用枠で普通免許状を取得した体育会系学生の応募もあるため現実的に枠を設けることの難しさも感じられた。

一方、「教育課程未履修者を教育現場に入れることに対する不安」については、実際に導入した事例の共有を進めることである程度払拭できるのではないかと考えている。今回の委託事業で事例集を作成する中でアスリートから教師へキャリアアップを果たした方々取材したが、もちろんアスリートから教員という異なる環境に入るにあたってアスリート本人にも受け入れ側の学校現場の組織にも負担がかかるのは事実だが、アスリートを受け入れた学校の学校長・同僚の教師および生徒からは非常にポジティブな声を聴くことができた。この不安については、好事例だけでなく失敗事例も含めて多くの事例を共有することで解消できるものと思われる。

近年の実績)

2019～2023 年度に特別免許状を活用した社会経験のあるアスリート人材を対象とした選考を実施していますか？

	都道府県 教育委員会	政令指定都市 教育委員会	合 計
①実施している（アスリート人材のみを対象とした特別選考として）	3	1	4
	6.4%	4.8%	5.9%
②実施している（アスリート人材を含む特別免許状の採用選考として）	4	0	4
	8.5%	0.0%	5.9%
③実施していない	40	20	60
	85.1%	95.2%	88.2%
合計	47	21	68
	100.0%	100.0%	100.0%

アスリートに限定せずに、アスリートを含む特別免許状の採用選考を実施している（①+②）のは全体の12%程度と低い水準。

今後の予定)

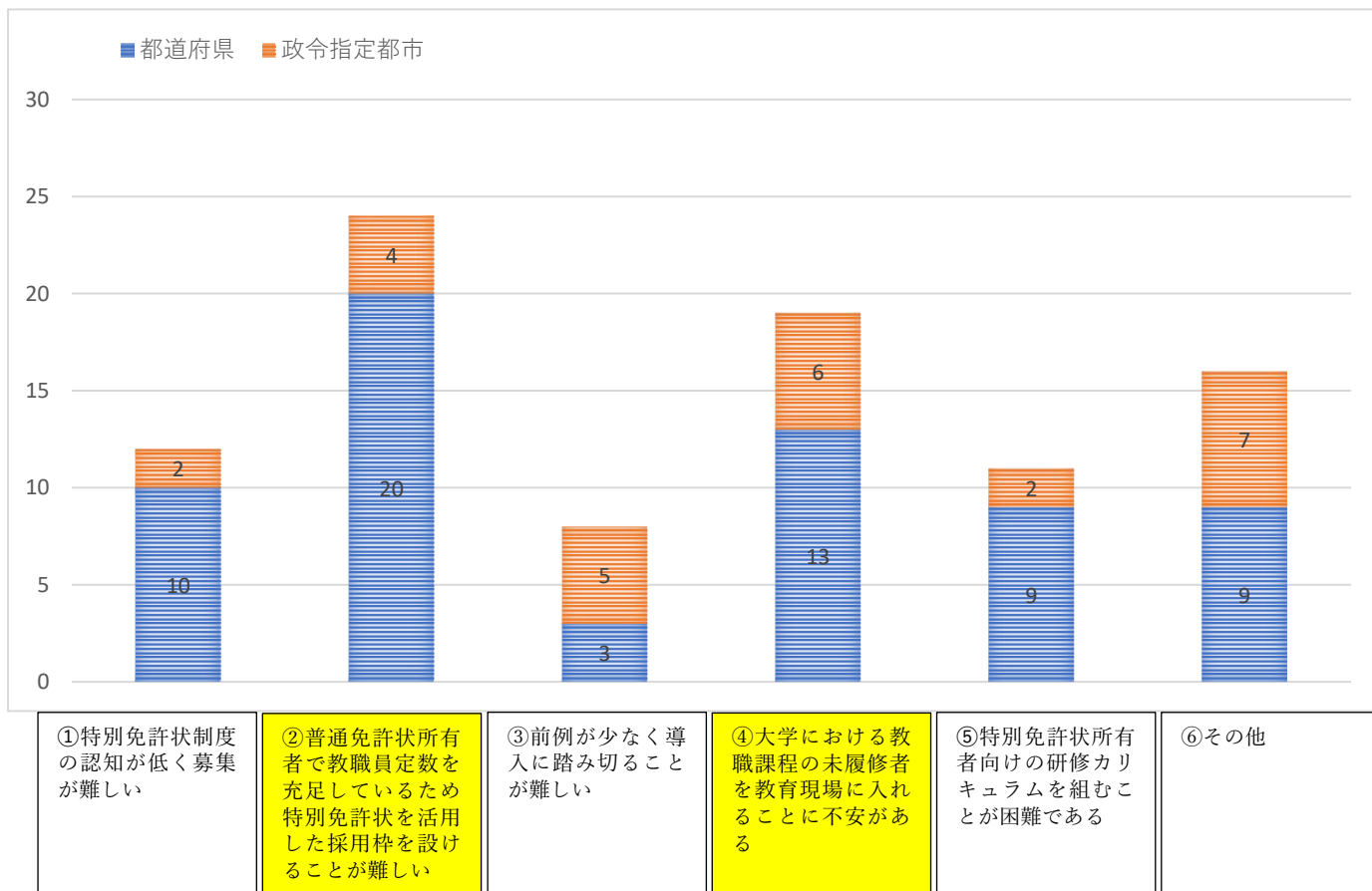
2024～2028 年度に特別免許状を活用した社会経験のあるアスリート人材の採用選考の実施予定はありますか？

	都道府県 教育委員会	政令指定都市 教育委員会	合 計
①実施予定あり	4	1	5
	8.5%	4.8%	7.4%
②実施を検討している	5	0	5
	10.6%	0.0%	7.4%
③実施予定なし	38	17	55
	80.9%	81.0%	80.9%
④未回答	0	3	3
	0.0%	14.3%	4.4%
合 計	47	21	68
	100.0%	100.0%	100.0%

今後の実施計画についても「予定あり・検討している」を含めても14.8%となっている。

課題)

特別免許状を活用した採用選考を実施する際の課題は何ですか？（複数回答）



Ⅲ. 特別非常勤講師制度の活用実績および活用意向について

特別非常勤講師制度は、「教科の領域の一部」について教員免許状を持っていなくても、採用権者が都道府県教育委員会に届出を行うことで「特別非常勤講師」として単独でその領域の指導や評価を行うことができる制度であり、教職課程を履修していない人材にとって教育現場を実際に体験し自身の教職への適性を確認することができるなど利用価値の高い制度と言える。

特別非常勤講師を経て特別免許状で教師になるという入職ルートはアスリート側・学校側双方にとってメリットが高いと思われるが、今回の調査ではそういった利用は広がっているとは言えない。

近年の実績)

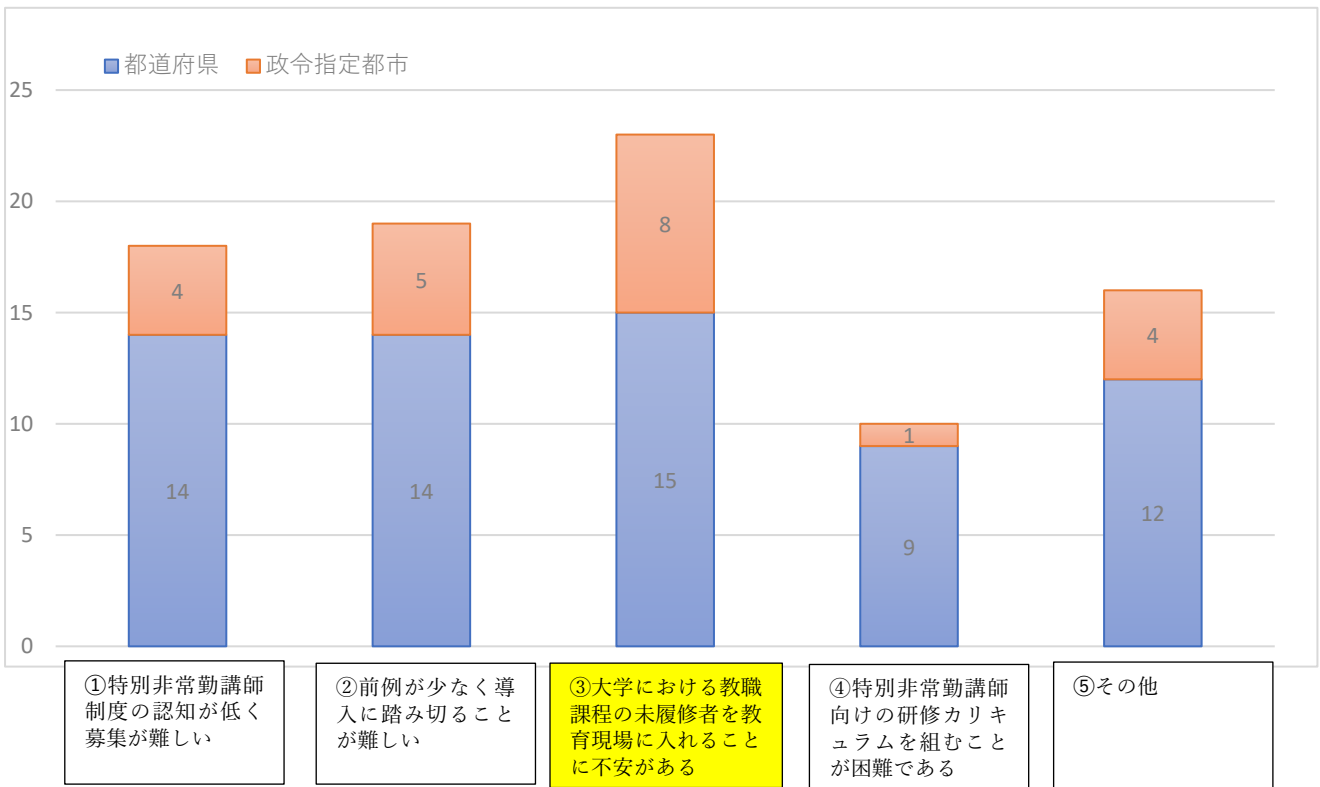
2019～2023 年度に社会経験のあるアスリート人材を特別非常勤講師として任用・雇用する届け出はありましたか？

特別非常勤講師制度の活用も 2 割程度となっている。

	都道府県
①あった	10 21.3%
②なかった	36 76.6%
③未回答	1 2.1%
合計	47 100.0%

課題)

特別非常勤講師制度を活用した採用を実施する際の課題は何ですか？



(1) ②教師としての入職を希望、検討している又は関心のあるアスリート人材に関するリストの作成

中央競技団体・スポーツキャリアサポートコンソーシアム等の協力を得て教職に関心のあるアスリートのリストを作成

アスリートサイドの情報収集にあたっては、中央競技団体・スポーツキャリアサポートコンソーシアム等の協力を得て「アスリート人材の教職意向調査」を実施した。

調査対象は、中央競技団体が強化指定選手としてこれまでに指定した実績がある選手および同等の競技実績があると思われる選手・指導者（現役・引退、プロ・アマチュアを問わず、18才以上）とした。

調査項目については、**別添資料2）-1**「アスリート人材の教職意向調査」参照

調査主旨・調査項目を各中央競技団体に郵送し、競技団体から各団体の登録アスリートへ展開してもらい、回答はオンラインフォームでの回収とした。

無記名での調査で464名の回答を得ることができ、さらにその回答者の中で教職に関心のあるアスリート180名の登録者（氏名・メールアドレス等）を獲得することができた。

成果2 「教職に関心のあるアスリートリスト」 **別添資料2）-2**

180名の登録者は、現役選手82名、既に引退した元選手84名、監督、コーチ等その他14名となっており、競技種目も多岐にわたり40を超える競技団体に所属しているアスリートの登録を得ることができた。

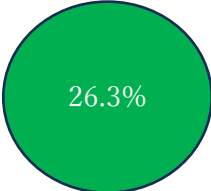
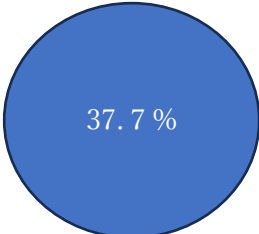

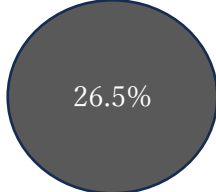
また、登録者の教員免許の所有の有無は以下の表にあるように約3分の2のアスリートは教員免許をもっていないが、教職に関する情報提供に対して登録してきており、アスリートの教職への関心の高さが伺える。

教員免許の有無	現役	引退	その他	合計
所有していない	66	49	6	121
所有している	16	35	8	59
総計	82	84	14	180

今回の調査では、464人のアスリートから回答を得ているが回答者のうち教員免許持っていると回答した人が166人、免許をもっていないと回答した人が298人となっている。

教職への関心については、免許を持っている166人のうち122人(73.5%)、免許をもっていない298人のうち175人(58.7%)が学校現場で働くことに興味を持っていると回答している。

今回の調査が「アスリート人材の教職意向調査」というタイトルで実施したため、そもそも教職に関して関心を持っているアスリートの回答が多くなるなどのバイアスがかかっていると考えられるが、免許をもっていない回答者298人のうち6割ちかいアスリートが教職に興味ありと回答しており、やはりアスリートの教員への関心の高さが伺える。

	教員免許あり (166人)	教員免許なし (298人)
教職に興味あり 297人	122人 (73.5%)  26.3%	175人 (58.7%)  37.7%
教職に興味なし 167人	44人 (26.5%)  9.5%	123人 (41.3%)  26.5%

一方で教員免許を持っていても教職に興味なしと回答している層(教員免許所有者の26.5%)が一定数いるが、学校現場で働きたいと思わない理由としては、「学校現場の職務環境は激務であると聞いているから」という回答が多くみられた。

次ページに「教職に関心のあるアスリートリスト」作成にあたって行った調査の主な結果を記載する。

②参考) アスリート人材の教職意向調査 回答概要

性別について教えてください。(n=464)

● 男性	283
● 女性	180
● その他	0
● 回答しない	1



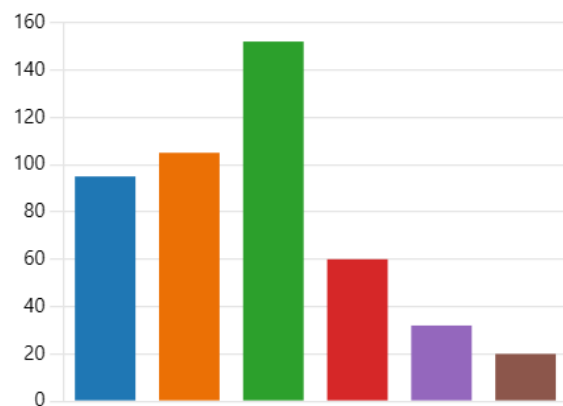
現在の競技活動状況を教えてください。(n=464)

● 現役	242
● 既に引退	199
● その他	23

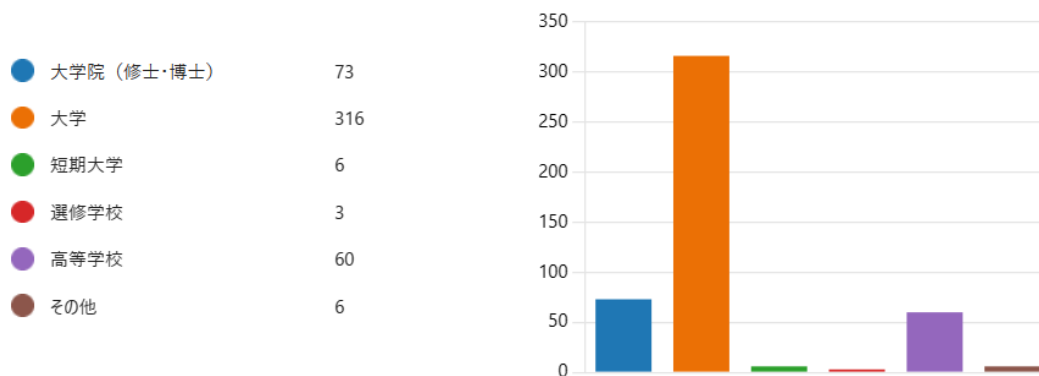


競技レベルはどの選択肢に当てはまりますか？ (n=464)

● オリンピック競技大会出場またはプロ...	95
● 世界選手権出場レベル	105
● 全日本選手権出場レベル	152
● インカレ、インターハイ、全中選手権...	60
● 県大会（都・道・府・県）上位入...	32
● その他	20

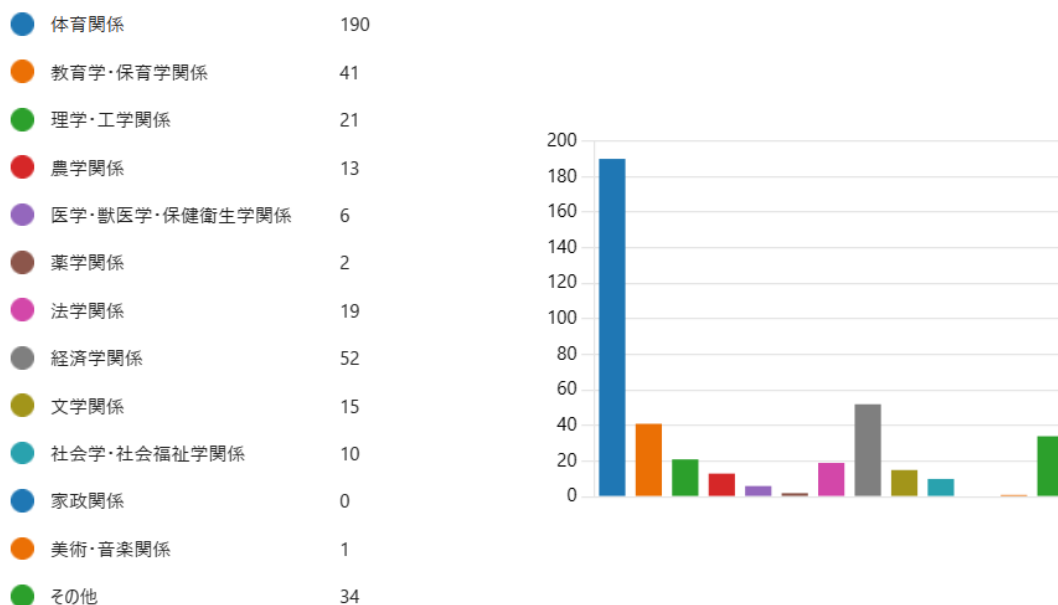


最終学歴又は現在在籍している学校を教えてください。 (n=464)

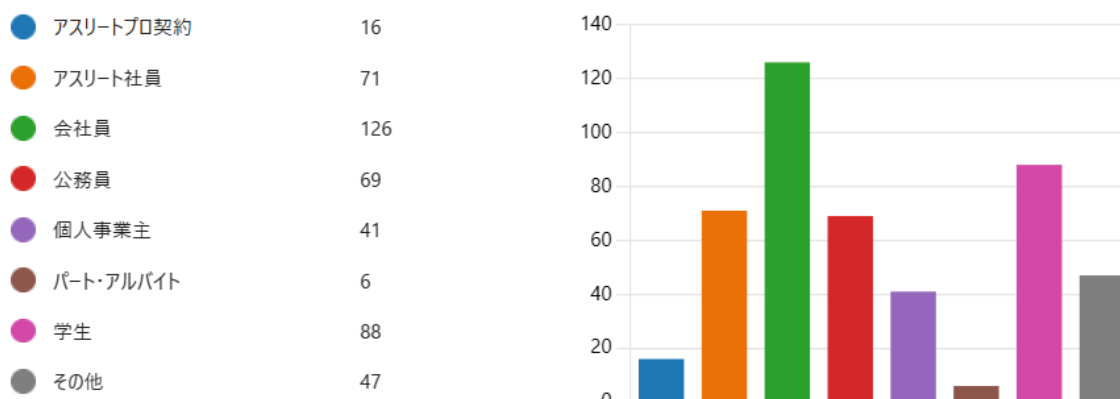


最終学歴又は現在在籍している学校（学部・学科等）の専攻分野を教えてください。

(n=464) 未回答 60



現在の職業を教えてください。 (n=464)



普通教員免許を所有していますか？ (n=464)

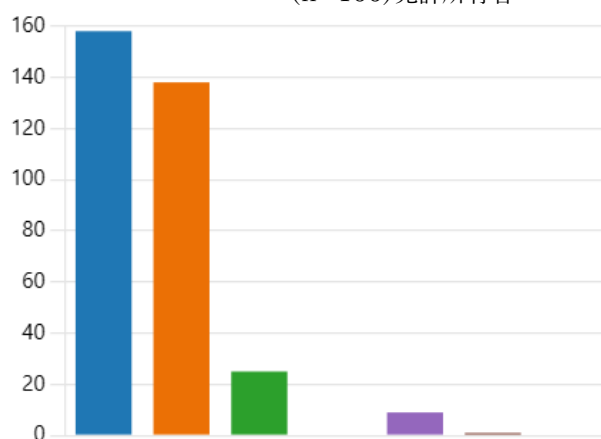
● 所有している	166
● 所有していない	298



所有している普通免許状の学校種を教えてください。※複数回答可

(n=166)免許所有者

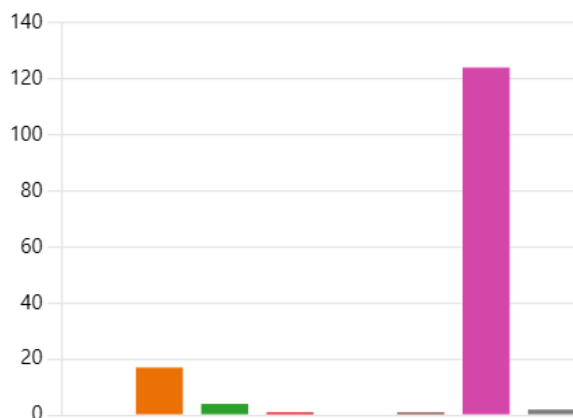
● 高等学校教諭普通免許状（教科）	158
● 中学校教諭普通免許状（教科）	138
● 小学校教諭普通免許状	25
● 幼稚園教諭普通免許状	0
● 特別支援学校教諭免許状(特別...)	9
● 養護教諭普通免許状	1
● 栄養教諭普通免許状	0



中学校教諭普通免許状は何の科目の免許状を所有していますか？※複数回答可

(n=138)中学校免許所有者

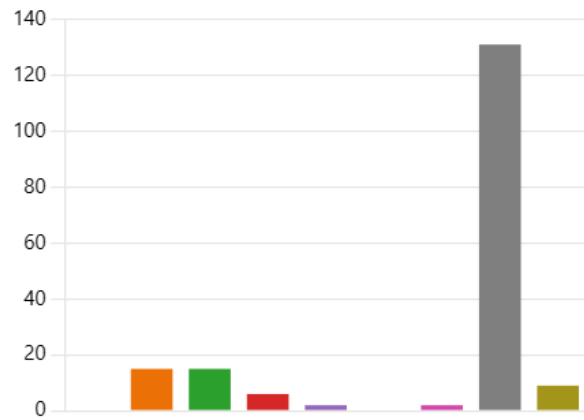
● 国語	0
● 社会	17
● 数学	4
● 理科	1
● 音楽	0
● 美術	1
● 保健体育	124
● その他	2



高等学校教諭普通免許状は何の科目の免許状を所有していますか？※複数回答可

● 国語	0
● 地理・歴史	15
● 公民	15
● 数学	6
● 理科	2
● 音楽	0
● 美術	2
● 保健体育	131
● その他	9

(n=138)高校免許所有者



学校現場で働きたいと思いますか？

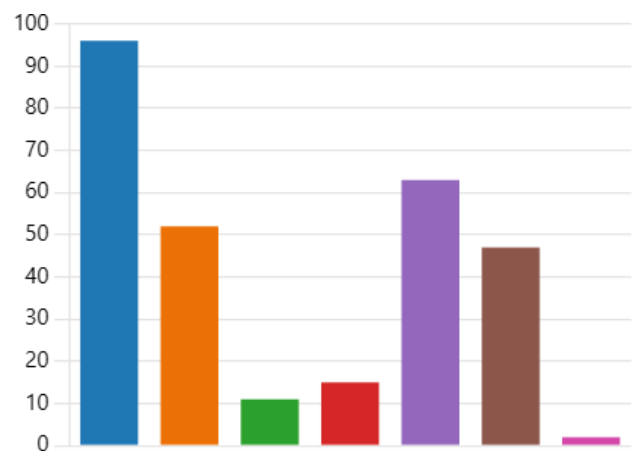
(n=166)免許所有者

● とてもそう思う	49
● ややそう思う	69
● ややそう思わない	30
● 全くそう思わない	14
● その他	4



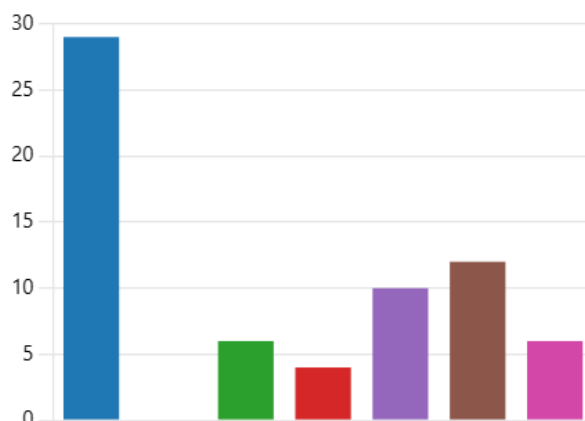
学校現場で働きたいと思う理由は何ですか？※複数回答可

● 子供たちの成長をサポートすることに...	96
● 教育を通じた社会貢献をしたいから	52
● キャリアの安定性を感じるから	11
● スポーツ指導者以外の選択肢として...	15
● 教員になりたいと思ったことがあるから	63
● アスリートで培った経験が学校現場...	47
● その他	2



学校現場で働きたいと思わない理由は何ですか？ ※複数回答可

- 学校現場の職務環境は激務である... 29
- 子供が苦手であるから 0
- 他人に教えることに苦手意識がある... 6
- 自分の専門性と適合しないから 4
- すでにやりたいことが決まっているから 10
- 教員免許は取得したものの大学等... 12
- その他 6



教員普通免許状がなくてもアスリート経験を活かして教師になれるとしたらなりたいですか？

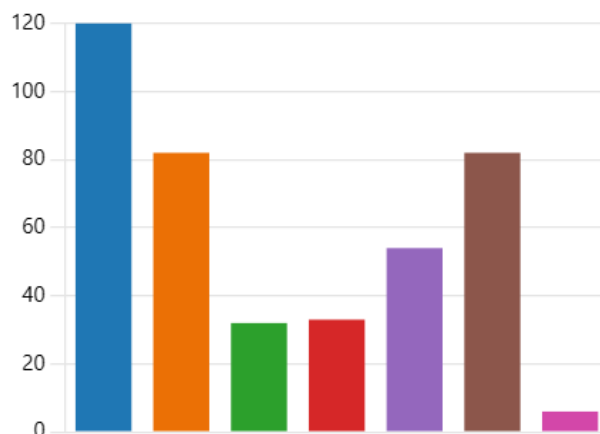
(n=298)免許所有者していない

- とてもそう思う 87
- ややそう思う 85
- ややそう思わない 53
- 全くそう思わない 70
- その他 3



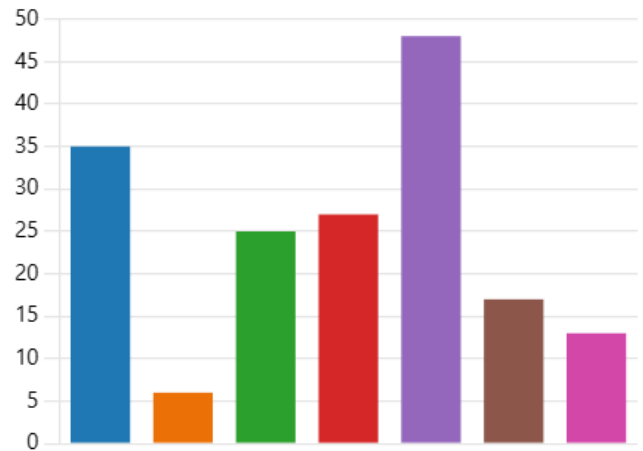
教職現場で働きたいと思う理由は何ですか？ ※複数回答可

- 子供たちの成長をサポートすることに... 120
- 教育を通じた社会貢献をしたいから 82
- キャリアの安定性を感じるから 32
- スポーツ指導者以外の選択肢として... 33
- 教員になりたいと思ったことがあるから 54
- アスリートで培った経験が学校現場... 82
- その他 6



教員現場で働きたいと思わない理由は何ですか？ ※複数回答可

● 学校現場の職務環境は激務である...	35
● 子供が苦手であるから	6
● 他人に教えることに苦手意識がある...	25
● 自分の専門性と適合しないから	27
● すでにやりたいことが決まっているから	48
● 指導法等について学んでおらず、指...	17
● その他	13



教師として入職するに当たっての研修等があれば参加したいと思いますか？

(n=173) 免許無し・教員関心あり

● とてもそう思う	86
● ややそう思う	79
● ややそう思わない	6
● 全くそう思わない	0
● その他	1

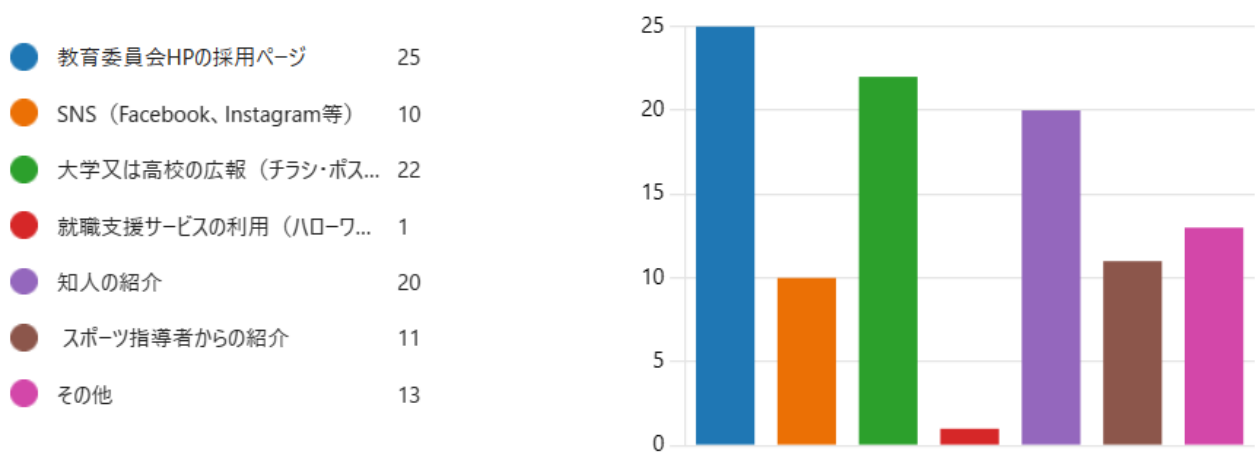


特別免許状は知っていますか？ (n=464)

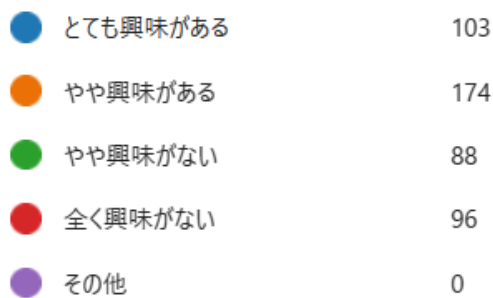
● 知っている	109
● 知らない	355



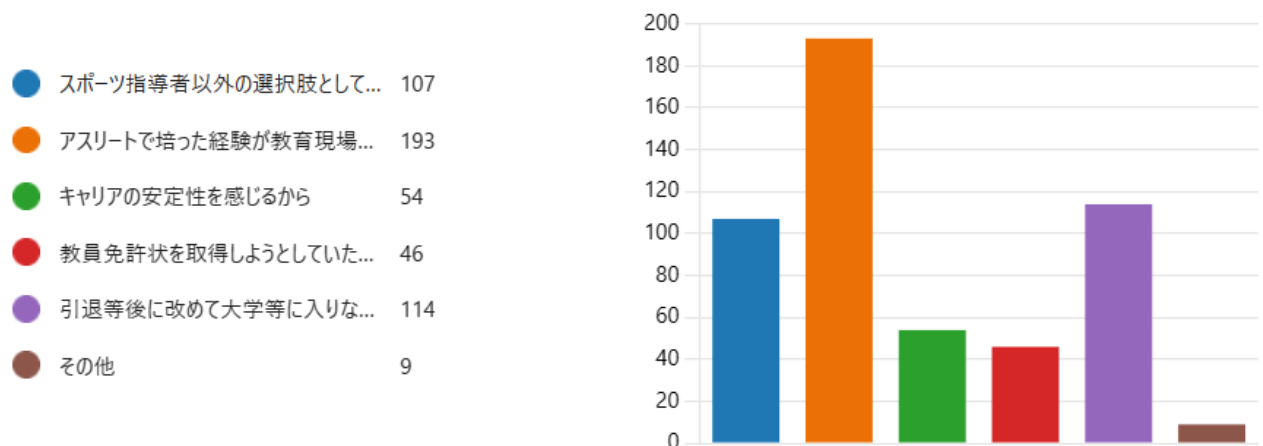
特別免許状をどこで知りましたか？ ※複数回答可 (n=109)



特別免許状に興味はありますか？ (n=464)



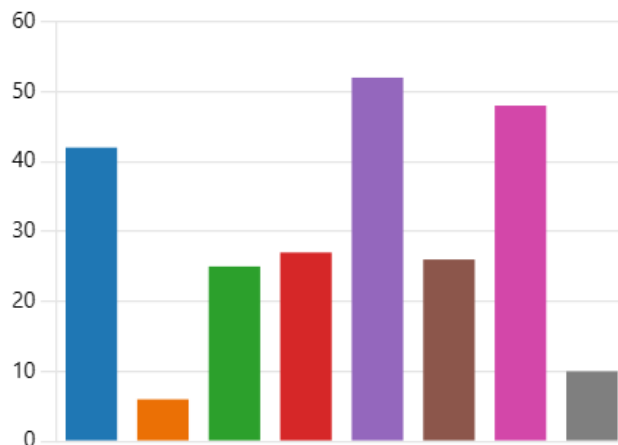
特別免許状を活用した教師としての入職に興味がある理由は何ですか？ ※複数回答可 (n=277)特免興味あり層



特別免許状を活用した教師としての入職に興味がない理由は何ですか？ ※複数回答可

(n=184)特免興味なし層

● 学校現場の職務環境は激務と聞い...	42
● 子供が苦手であるから	6
● 他人に教えることに苦手意識がある...	25
● 自分の専門性と適合しないから	27
● すでにやりたいことが決まっているから	52
● 指導法等について学んでおらず、指...	26
● 普通免許状を所有している又は現...	48
● その他	10



特別非常勤講師制度は知っていますか？

(n=464)

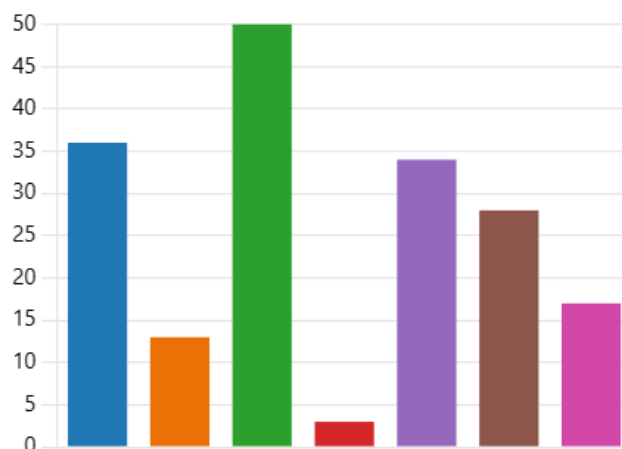
● 知っている	165
● 知らない	299



特別非常勤講師制度をどこで知りましたか？ ※複数回答可

(n=165)

● 教育委員会HPの採用ページ	36
● SNS (Facebook、Instagram等)	13
● 大学又は高校の広報 (チラシ・ポス...	50
● 就職支援サービスの利用 (ハローワ...	3
● 知人の紹介	34
● スポーツ指導者からの紹介	28
● その他	17



特別非常勤講師制度を活用した教師としての入職に興味がありますか？ (n=464)

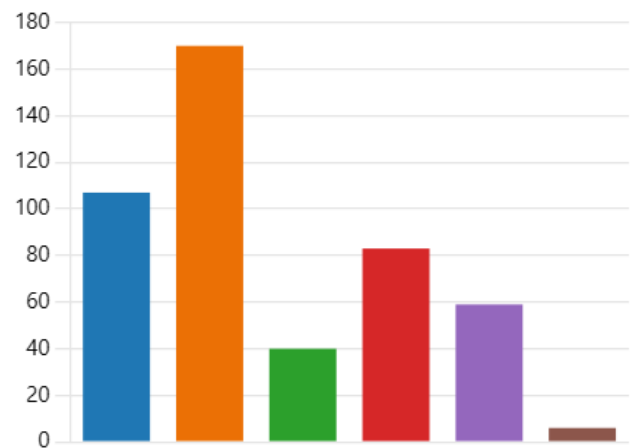
● とても興味がある	80
● やや興味がある	172
● やや興味がない	95
● 全く興味がない	112
● その他	1



特別非常勤講師制度を活用した教師としての入職に興味がある理由は何ですか？ ※複数回答可

(n=252)

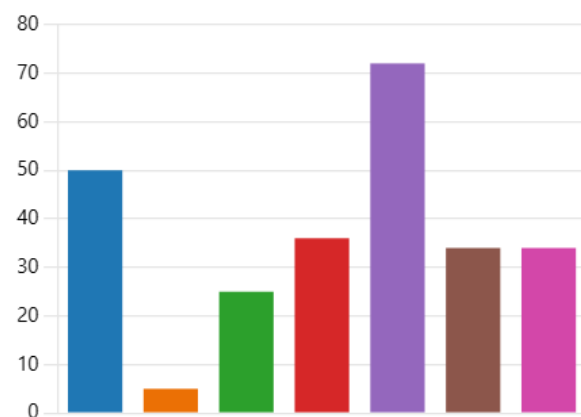
● スポーツ指導者以外の選択肢として...	107
● アスリートで培った経験が学校現場...	170
● 教員免許を取得しようとしていたが、...	40
● 非常勤講師ということで、基本的に...	83
● 教員に興味はあるが、免許取得は...	59
● その他	6



特別非常勤講師制度に興味がない理由は何ですか？ ※複数回答可

(n=207)

● 学校現場の職務環境は激務と聞い...	50
● 子供が苦手であるから	5
● 他人に教えることに苦手意識がある...	25
● 自分の専門性と適合しないから	36
● すでにやりたいことが決まっているから	72
● 指導法等について学んでおらず、指...	34
● その他	34



特別免許状又は特別非常勤講師制度について、制度の概要や制度を活用した教員採用選考等についての説明会があれば参加したいと思いますか？ (n=464)

● とてもそう思う	84
● ややそう思う	118
● どちらとも言えない	100
● ややそう思わない	66
● 全くそう思わない	96



特別免許状及び特別非常勤講師制度を活用した全国の募集条件（競技レベル等）や採用試験科目について調べることができる情報提供サービスがあれば利用してみたいと思いますか？ (n=464)

● とてもそう思う	99
● ややそう思う	151
● どちらとも言えない	87
● ややそう思わない	46
● 全くそう思わない	81



実際に学校現場で働いている元アスリートのお話を聞くことができる機会があれば聞いてみたいと思いますか？ (n=464)

● とてもそう思う	129
● ややそう思う	183
● どちらとも言えない	77
● ややそう思わない	31
● 全くそう思わない	44



(1) -③ ①で作成したリストの教員採用現場への定着方法

(1) -④ ①で作成したリストが、本事業終了後も低廉な予算で継続して更新・周知できる体制・
手法に関する提案

教職員の採用ニーズおよびアスリートの教師希望者リストは、ニーズの発生および消滅が不定期であることから、リストを常に有効な状態に保つことは難しい。

教員設置サイドの求人リストについては、文科省からのアスリート人材採用意向調査の定例化を進めるとともにアスリート人材の教育現場での採用ニーズの一元化を進める必要がある。現時点では、アスリートのキャリア支援組織であるスポーツキャリアサポートコンソーシアムに窓口を設置し、採用ニーズの集約を図ることが考えられる。令和5年度の活動を通して全教育委員会との関係性を構築することができ情報共有ルートは確立することができた。

また本年度作成した後述する「活用事例集」を都道府県教育委員会および政令指定都市教育委員会へ配布を行ない、アスリート人材の活用事例の共有を行った。同様に中央競技団体に対しても「活用事例集」を送付し啓蒙促進をはかった。

この事例集の表4（裏表紙）には、教職に関心があるアスリートの登録を促すQRコードを掲載しており、継続的にアスリートの登録者を増やすことができる仕組みづくりの第一歩を切ることができた。

成果3) 教職に関心のあるアスリートを継続的に集めるための窓口設置（登録フォーム常設）



<https://forms.office.com/r/6fy7G3wGmT>

継続募集・追加更新体制の提案

令和5年度に40超の異なる競技団体に所属しているアスリート180人の登録者を獲得し、この登録者にダイレクトに情報を届けられるようになった。

この登録アスリートに対してオンラインセミナー等の開催告知を行って登録者本人のみならず、競技仲間などへ告知を展開してもらい、参加を促す。

セミナーとしては各教育委員会と連携し、アスリートから教員になった人に講師として登壇いただき、学校現場、教師という仕事の魅力等を伝えてもらうような企画とする。

また、登録アスリートをベースにしてアスリート向けにオンラインで教育委員会によるアスリート採用のための合同説明会等の開催なども実施することで双方の出会いの場を安価に作ることも可能と考えている。

(2) アスリート人材の活用に関する事例集の作成

本年度は下記の5事例の取材を行い「アスリート出身者の教師としての入植に関する事例集」を作成した。

北海道：日本体育大学付属高等支援学校	特別免許状	サッカー選手⇒保健体育教師
福井県：福井県立美方高等学校	特別免許状	ボート選手⇒体育専科教師・ボート部コーチ
長野県：長野県南箕輪村立南箕輪小学校 ・南部小学校	普通免許状	バレーボール選手⇒体育専科教師
京都府：京都府立乙訓高等学校	特別免許状	フェンシング選手⇒保健体育教師・フェンシング部顧問
大分県：大分県立佐伯豊南高等学校	普通免許状	400mハードル選手⇒保健体育教師・陸上部コーチ

成果4) 事例集作成

アスリートから教師へ

アスリート出身者の教師としての入植に関する事例集 別添資料3) 参照
A4版 20ページ フルカラー (インタビュー記事 5事例・10P)

- ・各教育委員会および中央競技団体へ郵送配布
- ・教職に関心のあるアスリートリスト(登録者180人)にPDFデータ配信

事例集の構成

◆巻頭記事 アスリート向けに記事を作成

教師になるための制度等をQ&A形式で解説。

最新の情報にいつでもアクセスできるように関連ページへのQRコードを配置。

アスリートに実施したアンケート結果をもとにアスリート自身が「自分ごと」に思えるようにし、次ページからの事例へ展開。

◆事例記事(5事例 各事例見開き2ページ 計10ページ)

事例ページは以下の要素0)～要素6)までの7つの要素で基本的に構成している

要素0) プロフィールデータ

要素1) アスリートのトランジションストーリー(メインコンテンツ)

要素2) LIFE HISTORY

アスリート人生から現在の教師になるまでの流れを記載。

要素3) WEEKDAY WEEKEND

教師の日常を理解してもらうためにどんなタイムスケジュールで活動しているかをイメージしてもらうためのコーナー。

要素4) 学校長・同僚教師等のメッセージ

要素5) 生徒からのメッセージ

要素6) 目指す教師像

*事例のピックアップにあたっては、地域・男女比・特別免許状での入職・普通免許状での入職等のバランスを考慮した。

◆巻末記事 教育委員会向けに記事を作成

今回事例で取り上げた教育委員会の取り組みを他の教育委員会でも参考にしてもらえようといういくつかの観点からメッセージをいただき構成。

(3) その他取り組み

・スポーツキャリアサポートコンソーシアム（SCSC）との連携

1)アスリートのキャリアトランジションロールモデルに教員事例を掲載する

スポーツキャリアサポートコンソーシアムと連携し、アスリートから教職に進んだ事例をロールモデルとして収集し、SCSCのロールモデルインタビューコーナー(https://sportcareer.jp/?post_type=news)に掲載することで教師という仕事が引退後の選択肢の一つであることを訴求する。

本年度は、特別免許状を活用した事例として大村加奈子氏のロールモデルインタビュー記事を掲載することができた。

成果5) 特別免許状活用事例のロールモデルインタビュー記事化

<https://sportcareer.jp/interview/rolemodel-kanako-omura/>

中学校1年生からバレーボールを始める。京都府立北嵯峨（きたさが）高等学校では春高バレーでベスト4に進出。高校卒業後、ダイエーオレンジアタッカーズ（当時）に入団。1997年に全日本メンバーに初選出されワールドグランプリ大会に出場し、2004年のアテネオリンピックにも出場。2007年久光製薬スプリングスでVプレミアリーグ優勝。その後も全日本メンバーとしてワールドカップ、2008年北京オリンピックにも出場。2009年9月、京都府教育委員会の教員採用試験を受験し、特別免許状により2010年4月から母校である京都府立北嵯峨高等学校に教員として着任することが決まり、2010年3月に現役を引退。



大
村
加
奈
子

元Vプレミアリーグバレーボール選手
アテネ・北京オリンピック出場
京都府立北嵯峨高等学校
保健体育科教諭

バレーボール kanako OMURA

2) スポーツキャリアサポートコンソーシアム主催のアスリートキャリアチャレンジカンファレンス 2024にアスリートから教師にキャリアトランジションした人材を登壇させる

成果6) 特別免許状を活用したキャリアトランジション事例として山田（小鳥田）貴子氏が登壇

スポーツキャリアサポートコンソーシアム（SCSC）が例年3月に実施している「カンファレンス」においてもアスリートから教育現場にキャリアトランジションし、活躍している事例を取り上げ、広く訴求していくことを実施。プログラム3「アスリート人材の可能性」のコーナーにおいて長距離陸上選手から特別免許状を活用して高等学校の教師になった山田（小鳥田）貴子氏に登壇いただくことができた。

スポーツ庁委嘱事業「令和5年度スポーツキャリアサポート支援事業」
Athlete Career Challenge カンファレンス 2024
競技を通じて培われる
アスリート人材のチカラを社会へ
～中央競技団体、企業スポーツ等におけるアスリートのキャリア開発への取り組み～

PROGRAM 01 アスリートのキャリア開発について団体のゲストをお招きし、トークセッションを行います
アスリートのキャリア開発に関する 中央競技団体の取り組み

立花 泰博 氏
長野 真直 氏
濱野 佳史 氏
船岡 文彦 氏

PROGRAM 02 スポーツを志した企業職員の12ヶ月でのキャリア開発の取り組みをご紹介します
プロチーム・企業スポーツを持つ企業の取り組み事例

NTTコミュニケーションズ株式会社
トヨタ自動車株式会社
株式会社徳島DAIバスターズ

渡井 公一 氏
山之内 英樹 氏
山根 威史 氏

2024年 3月2日
13:00～16:30(210分)
参加費無料
参加方法
下記サイトまたはQRコードよりお申し込みください

Athlete Career Challenge カンファレンス 2024

PROGRAM 03
アスリート人材の可能性
アスリート人材の形成に携わった企業にキャリアチェンジしたアスリートが、自身の経験やノウハウを共有する。

● 企業スポーツ選手 ▶ 藤原 丹野 胡莉 氏(元ソフトボール選手)
● 企業スポーツ選手 ▶ 広島高宮高翔選手
山田 貴子 氏(元長距離陸上選手)
● リーダー ▶ 株式会社新栄社
杉原 龍馬 氏(元サッカー選手)

PROGRAM 04
ACCの活動事例
ACCの取り組み事例を共有し、アスリートのキャリア開発についてトランジションを促す。

● ジュニア企業アスリート育成事業への取り組み
藤岡 賢二 氏(元サッカー選手)
● サッカー選手のキャリア支援への取り組み
菅野 真直 氏(元サッカー選手)
● 陸上競技選手へのキャリア支援への取り組み
正垣 嘉 氏(元陸上選手)
● 企業高球サッカー部への取り組み
鳥家 千鶴 氏(元高球選手)

タイムスケジュール | 3月2日 13:00～16:30(210分)

13:00……開会挨拶
13:05……スポーツ庁事業説明
13:10……アスリートのキャリア開発に関する中央団体の取り組み
14:15……プロチーム・企業スポーツを持つ企業の取り組み事例
15:10……アスリート人材の可能性
15:50……ACCの活動事例

スポーツキャリアサポートコンソーシアムとは
アスリートから企業スポーツに携わったアスリートが、自身の経験やノウハウを共有する。企業スポーツに携わったアスリートが、自身の経験やノウハウを共有する。企業スポーツに携わったアスリートが、自身の経験やノウハウを共有する。

SPORT
スポーツキャリアサポートコンソーシアム事務局
E-mail: sportcareer@futuredesignlab.jp TEL: 03-6222-8855

別添資料4

★現役時代 陸上競技（長距離）

1996年～2005年 （株）エディオン
⇒ 結婚・出産

2008年～2012年 （株）エディオン

《競技実績》

- ・2002年 釜山アジア大会 4位
- ・2003年 世界ハーフマラソン 団体2位




★教職に進んだ経緯

- 1、高等学校陸上部コーチ（講師）の依頼を受ける。（4年間）
- 2、広島県（市）にて、高等学校保健体育の教員採用試験にアスリート枠が採用される。

★現在について

保健体育科教諭、陸上部顧問

2016年 広島市立沼田高等学校
2023年 広島市立広島工業高等学校




また当カンファレンスの視聴者に対して特別免許状の認知アンケートを行ったところ下記の結果となった。

特別免許状という制度について知っていましたか。 (n=345)

● 知っていた	116
● 知らなかった	229



Ⅲ. まとめ

令和2年度から始まった新たな学習指導要領において掲げられた理念「社会に開かれた教育課程」の実現にむけて多様な経験や背景を持つ人材が学校現場に円滑に参画できる環境整備を促進し、アスリートを含め学校教員に占める民間事業者等勤務経験者の割合を増加させることが当事業の目的である。

現時点では、アスリートのみならず多様な経験や背景を持つ人材の学校現場への参画については環境整備の転換期であり、教育委員会によって取り組み・意識に大きな差がみられる。

アスリート人材は、教科としては「保健体育」であることが多いが、募集枠がなく教員になることを諦めてしまうという声も聞こえてくる。学校設置者サイドに対してアスリート人材の教育現場での活躍事例を示すことで採用側のニーズの拡大を図ることも重要と考える。

そのためには、アスリート人材が競技で培った専門スキル（専門競技のスキル）を生かすことが最重要なのではなく競技者として培ったポータブルスキル（いわゆる人間力）こそが教育現場に求められるチカラであることを訴求することでアスリートの教育現場での活躍の場の拡大につながるものと考えている。

【アスリート人材の能力】

競技者としての専門性（テクニカルスキル）は、その競技指導の場面においては有効であるが、学校教育現場における多くの場面においては必ずしも必要ではない。アスリート人材を教育現場に活用することの最大の効果は、一流の競技者となる過程で養成されたポータブルスキル・スタンスなどと言われるいわゆる「人間力」であり、その能力を生かし、クラス運営、生徒のモチベーションUPなども含めた学校や生徒との関わりにこそある。今回、事例の取材を通してあらためてアスリート人材の「人間力」の高さを認識することができた。

また今回、アスリートに対する調査から教育現場で働くことに対するアスリートの関心の高さが伺えた。一方で現役時代にはトップアスリートであればあるほど大会・遠征など過密なスケジュールで教育実習などに行く時間がとれず、教員免許を取得したくてもできない層もいる。こういった層に対しても特別免許状等の制度は有効な制度であるが、認知度が低いことから今後一層の認知拡大のための取り組みが必要である。

本年度スタートさせた「教職に関心のあるアスリートリスト」登録者を更新・拡大していきながら教育現場とのマッチングに進めていきたい。

IV. 事業実施体制

事業統括責任者

竹原 啓二 (株) フューチャー・デザイン・ラボ 代表取締役会長

ディレクター 兼 事業推進担当

曾我 隆之 (株) フューチャー・デザイン・ラボ 代表取締役社長

事業推進担当

藤原 健一 (株) フューチャー・デザイン・ラボ 取締役

高岸 遼 (株) フューチャー・デザイン・ラボ スタッフ

アシスタント

岸野 菜つみ (株) フューチャー・デザイン・ラボ スタッフ

バンザラグチ・ズンビレグ (株) フューチャー・デザイン・ラボ スタッフ

V. 参考資料

資料1) - 1 「社会経験のあるアスリート人材の教職採用実績および教員採用意向についての調査」調査票

資料1) - 2 アスリート人材教員採用情報_教育委員会リスト (実績版・普通免許予定版・特免予定版)

資料2) - 1 「アスリート人材の教職意向調査」調査票

資料2) - 2 教職に関心のあるアスリートリスト (個別版・集計版)

資料3) アスリート出身者の教師としての入職に関する事例集 (1ページ毎版・入稿用)

資料4) SCSC アスリートキャリアチャレンジカンファレンスチラシ

本報告書は、文部科学省の教育政策推進事業委託費による委託業務として、株式会社フューチャー・デザイン・ラボが実施した令和5年度「学校教育における外部人材活用事業」の成果を取りまとめたものです。

従って、本報告書の複製、転載、引用等には文部科学省の承認手続きが必要です。